

平成28年度 厚生環境委員会と富山県美術館に係る 関係者との意見交換会報告

厚生環境委員会では、「富山県美術館に期待する取り組みについて」をテーマに、以下のとおり、地元関係者、美術関係者の皆様の生の声をお聴きする意見交換会を開催しました。

1 開催日

平成29年2月23日(木)

2 場所

タワー111 2階 会議室1

3 参加者

県議会側

厚生環境委員長	浅岡	弘彦
副委員長	藪田	栄治
委員	澤谷	清
〃	火爪	弘子
〃	山本	徹
〃	稗苗	清吉
〃	杉本	正
〃	山辺	美嗣
地元議員	岡崎	信也
〃	藤田	良久
〃	吉田	勉
〃	平木	柳太郎
〃	五十嵐	務

関係者

愛宕地区自治振興会 会長
運河のまちを愛する会 会長
チャンネルサイド ララ シャンス 支配人
富山市立奥田小学校 校長
富山県美術連合会 会長
富山大学芸術文化学部 准教授
富山県立富山北部高等学校 校長
富山県美友の会 常任委員

4 テーマ

富山県美術館に期待する取り組みについて

～地域に息づく身近な美術館、気軽に美術に親しめる憩いの場としての美術館となるために～

5 意見

愛宕地区自治振興会

- ・ 誰もが楽しみながら美術を学び親しむことができる、ほかにない独自のものづくり体験、絵画教室などをやれば、美術館に行ってみたい、美術館に行けば何かをやっているという意識になるのではないかと思う。

運河のまちを愛する会

- ・ 近隣の環水公園では、いろいろなイベントを開催していて、その参加団体などと情報交換をすれば、相乗効果が期待できるのではないか。
- ・ 晴れた日の屋上から見える景色がすばらしいことから、立山連峰も見えて、運河も見える美術館というイメージでPRしていただきたい。

チャンネルサイド ララ シャンス

- ・ 現在、環水公園でも結婚式や結婚式の撮影などをやらせていただいております、多くの方がSNS等で活用いただいているので、建物や周辺の景色が非常にすばらしい美術館でもそういったことができれば、より多くの方にお楽しみいただけ、身近に感じられる美術館になるのではないかと、そういう意味で応援させていただきたい。

富山市立奥田小学校

- ・ 小学生というのは、自分でも作品を作るので、実際に作家の方が制作している場面を見せていただいたり、話しかけてみたりできる機会や作家の方の制作への思いなどを聴ける企画があるといいと思う。
- ・ 触ってはいけない、しゃべってはいけない、見るだけという鑑賞が多いが、時には触ってもいい、感じたことを話してもいい、撮影もいいというような、今まで禁止されていたことが許される企画があったらいいと思う。
- ・ ある美術館の企画で工芸とデザインのどちらの要素が多いかを学芸員が判断して、物を並べてある展示を観たことがあるが、観ているうちに、自然と自分だったらどうしたいか、どう思うかと考えるようになっており、知らず知らずのうちに学芸員の方の感性と会話している

自分に気づいたことがある。おもしろい企画、工夫だと思った。作家や学芸員の方の感性と対話を楽しめるような展示の工夫を考えていたきたい。

- ・ 教科書に載っている作品を直に観ることが出来たとき、子供は純粋に感動し、喜ぶ。著名な作品の展示はなかなか難しいかもしれないが、時にはそういう機会があればありがたい。

富山県美術連合会

- ・ この美術館は、年齢にかかわらず子供から高齢者までが、空間を楽しめる素晴らしい美術館だと思う。
- ・ 近代美術館は20世紀美術を主に近寄りやすいといわれる分野の美術を扱っていたが、若い作家にとっては、本当に勉強になる、鍛えてくれる、育ててくれる美術館であった。そういう意味では、新しい美術館でも、必ずしも県民に親しまれないかもしれないが、ぜひ、若い世代に刺激を与えてくれる、前衛的な作品の展示もしてほしい。また、若い作家に発表の場を与えてくれる美術館であってほしい。

富山大学芸術文化学部

- ・ 富山県美術館がアートとデザインという2つの部門を紹介していく方向性になっている。デザインは、身近にあり過ぎて、もしかしたら見過ごしてしまいそうなものであるため、そういうものを美術館で改めて紹介していくことが重要になってきているのではないかと思う。一方通行的な展示ではなく、来館者に理解してもらえ、共感を呼べるような伝え方を特に意識してほしい。
- ・ 新しい美術館には、木がふんだんに使用され、まるで木で包まれたトンネルの中にいるような気持ちになった。「木育」という言葉もあるが、こういう環境が人を豊かにする。建物としても機能していくことに非常に期待している。

富山県立富山北部高等学校

- ・ 新しい美術館は建物自体が作品であり、周辺の春夏秋冬の景色が変化する動きのある美術館だという印象を強く持った。
- ・ 本校には、情報デザイン科があるが、新美術館を利用して、さらなるデザインを極めていきたい。本校生徒の作品も展示させてほしい。
- ・ 美術館に繰り返し何度も来館してもらうには、最後は学芸員、スタッフ、警備員の方も含めて、そういう方々とまた話をしたり、勉強したりしたいという気持ちになっていただくことが大事だと思う。

スタッフの方々にも、みずから人を呼び込むのだという考えをもっていたきたい。

- ・ 県内にはいろいろな施設があるので、例えば、周辺のレストランや水墨美術館などと何か一つのテーマを決めてコラボレーションすることはできないだろうか。
- ・ デザインには、ファッション、文具、アニメ、スポーツ、鉄道、動植物、宇宙などさまざまな分野が考えられるが、子供が喜ぶデザインの企画であれば、その父母、祖父母も含めて、皆に喜ばれるのではないか。
- ・ レストランも出店されるということであるが、仕事帰りに家族と友人と食事を摂りながら、美術品を見られる企画があればいいと思う。

富山県美友の会

- ・ これまでの近代美術館は、20世紀美術の流れを起点に、さまざまな現代美術を展開し、企画展ごとにいろいろな思いを育ててきたと思う。しかし、新美術館は「アートとデザイン」という漠然としたものが提示されているが、何を根本としていくのか、いま一つつかめない感がある。新美術館をつくるに当たって、よく聞かれた言葉に、近代美術館は敷居が高いということがある。また、誰もが親しむ、誰もが愛する美術館でなければならないともよく言われた。しかし、敷居が高いからといって、敷居を削るとか、敷居を低くするというのではなく、訪れた人がそういうことを関係なしに、いつの間にか中に引き込まれているような美術館であってほしいと思う。
そのためには、学芸員さんを初めとした人材の充実が大変重要であると思う。
- ・ 誰にでも愛される美術館にはなってほしいが、それが口当たりのいい、万人受けする美術館という意味ではなく、さまざまの好みを持った来館者がそれぞれに何かに出会える、多様性に応じる美術館となるため、ぜひ人材を投入することによって実現してもらいたいと思う。

委員

- ・ 建物的に魅力がいっぱいで、物語のある美術館だと思う。また地元の皆様が環水公園を非常に大切に思ってこられ、これと一体的な景観やにぎわいをつくってほしいという期待が大変よくわかった。
- ・ 常設展、企画展と子供の遊び場の提供を同時に行って、本当に大丈夫なのだろうか、ゆっくり味わいたい作品もあれば、静かに堪能したい

作品もある中で、屋上から子供たちが階段を駆けおりてくるというのは、どうなのだろうかというような不安がある。そういう意味で、学芸員さんやスタッフさん、ボランティアさんが、どのような思いで来館者と関わっていくのかは、美術館の運営に対する考え方が大きな位置づけとなると思う。

委員

- ・子供たちが触ってもいい、話してもいい、写真を撮ってもいい企画というご意見は、非常に重要な観点だと思う。スマートフォンで写真を撮って、それを発信する、そのことがその場所の魅力につながると思う。

委員

- ・アルミや氷見に杉材が使われていて、ぬくもりも感じ、うれしく思った。また、ご意見のあったとおり、近代美術館の美術からデザインをどう受け入れていくかは、心配でもあり、期待もしている。一方で、瀧口修造が美術館にとって、とても大切な人であり、新しい美術館の瀧口修造の部屋もとてもすてきにつくられているのを見て、こういう心をもった方たちに運営していただく美術館ならば、きっと近代美術館の伝統とデザインを調和していってくれるのではないかとうれしく思った。これから、一緒につくっていくという立場で、どんな美術館に発展していけるのか、一緒につくっていきたくて改めて思った。
- ・富山県美術連合会さんのからの意見の中で、近代美術館は自分たちを鍛えてくれる美術館だったと言われたが、もう少しわかりやすく言っていただくと、どういうことでしょうか。

富山県美術連合会

- ・近代美術館では、美術のおもしろさだけでなく、アートとは何なのかを考えさせられる、そういった展示が非常に多かった。例えば、そのときにはその作家の作品が理解できなくても、別の機会に別の美術館でその作家の作品をまた違った形で見ると、こういうことだったのかと理解できることがあるように、問いかけてくる、挑戦してくる、そういう作品を取り上げてくれたことが、非常にありがたいことだったなと思っている。近代美術館が持っていたそういう先進的部分はやはり残してほしいと思う。

